

---

大学史展示室 特集展

# 駒沢移転 90 周年記念展

— 駒沢とあゆんで90年 —

会期：平成15年9月24日（水）～平成16年4月23日（金）

---



移転直後の駒沢校地



日ヶ窪から移築された大講堂（本学図書館蔵）

平成15（2003）年は、駒澤大学の前身、曹洞宗大学が駒沢に移転してから90年目に当たります。この移動は、麻布区北日ヶ窪町（現在の港区六本木）から大講堂・図書館・教場などの建物をそのまま移築するなど、駒澤大学の歴史はじまって以来の大事業でした。

今回は、Ⅰ 駒沢移転の認可、Ⅱ 90年前の駒沢、Ⅲ 大学の引越の3つにスポットを当て、関連資料を展示します。

この展示を通して、駒沢移転を身近に振り返っていただければ幸いです。

## I 駒沢移転の認可のコーナー

明治 37 (1904) 年に、駒澤大学の前身、曹洞宗大学が誕生しました。この結果、学生数が急増し、校地の拡充が大きな課題となります。この当時、大学は麻布区北日ヶ窪町（現在の港区六本木、六本木ヒルズ周辺）にありました。

時を同じくして、駒込の吉祥寺にあった曹洞宗第一中学林（現在の世田谷学園）の移転問題が生じ、曹洞宗大学と曹洞宗第一中学林が合同で移転することになりました。

明治 45 (1912) 年 4 月 11 日、荏原郡駒沢村（現在の世田谷区駒沢）に新校地を獲得しました。また、移転に先立ち、同年 6 月 22 日、曹洞宗大学の設立者、森田悟由が駒沢への校地移転を文部省に申請しています。

《展示資料》

- No.1 駒沢新校地への移転認可願（明治 45 (1912) 年／東京都公文書館蔵）
- No.2 駒沢新校地の校舎配置図（明治 45 (1912) 年／東京都公文書館蔵）
- No.3 現在の駒沢校地

## II 90年前の駒沢コーナー

駒沢校地を獲得したのは、明治 45 年 (1912) 年 4 月 11 日でした。この当時は、荏原郡駒沢村大字深沢字狸谷（まみがや）と称していました。

駒沢校地は、当初、小説家の岡本かの子の父、大貫寅吉、つぎに、この地で養鶏場を営んでいた郷力三郎、そして、移転直前には、喜多博が所有し、大沢某が 3 千羽からなる養鶏場を営んでいました。

移転当時の駒沢校地の周囲は、人家もまばらで、水田、畑、雑木林が一面にひろがる田園地域でした。

大学の移転によって、薬局、銭湯、理髪店などの学生あいての店が開かれていきました。

《展示資料》

- No.1 駒沢町の小字名が記された地図（昭和 5 (1930) 年／本学図書館蔵／原題：東京荏原郡駒沢町 5 千分の 1 地図）
- No.2 明治 42 年当時の駒沢周辺（明治 42 (1909) 年／本学図書館蔵／原題：明治 42 年測量 1 万分の 1 地形図 東京 7 号の 7 碑文谷）
- No.3 大正 14 年当時の駒沢周辺（大正 14 (1925) 年／本学図書館蔵／原題：大正 14 年部分修正 1 万分の 1 地形図 東京 19 号 碑文谷）
- No.4 昭和 23 年に撮影された駒沢周辺（昭和 23 (1948) 年／原蔵：財団法人日本地図センター）

## III 大学の引越のコーナー

明治 45 (1912) 7 月 25 日、曹洞宗大学の駒沢新校地の整備と日ヶ窪旧校地からの引越しが開始されました。

日ヶ窪旧校地からは大講堂、図書館、教場などをそのまま駒沢村の新校地に移築しました。これ以外の校舎は新築されました。このように、駒沢移転は本学の歴史がはじまって

以来の大事業でした。しかし、台風・大雪などの自然災害により、駒沢での工事は順調には進められませんでした。

何とか工事も終了した大正2(1913)1月26日、駒沢新校地で仮移転開校式を挙行し、駒沢移転が完了しました。

《展示資料》

- No.1 大学建築事務所日誌 (明治45〈1912〉年—大正2〈1913〉年)
- No.2 移転直後の駒沢校地 (大正2〈1913〉年—大正12〈1923〉年／個人蔵)
- No.3 日ヶ窪からの引越品・大学林文庫本 その1 (明治8(1875)年購入「延宝伝灯録」／本学図書館蔵)
- No.4 日ヶ窪からの引越品・大学林文庫 その2 (明治8〈1875〉年購入「論語集註」／本学図書館蔵)

《デジタル駒大史》

大学史展示室近くに設置したパソコンで、駒沢に移転した当時の写真スライドショーをやっていますので、あわせてご覧下さい。



現在の日ヶ窪校地跡地 (右側・テレビ朝日社屋周辺、左側が六本木ヒルズ前の毛利池)



日ヶ窪から移された大学林文庫本  
(「延宝伝灯録」・本学図書館蔵)

## 駒沢移転関係略年表

年	月 日	事 項
明治 37(1904)年	3月11日	曹洞宗大学林、専門学校に昇格。
明治 38(1905)年	1月1日	「曹洞宗大学」への改称。
明治 45(1912)年	4月11日	荏原郡駒沢村の土地(現在の駒沢キャンパス)を取得。
	6月22日	文部省に、駒沢新校地への移転許可願を文部省に提出。
	7月26日	大沢氏(養鶏場の経営者)から駒沢新校地の引き継ぎをする。
	7月30日	明治天皇崩御(翌31日、大正改元)。駒沢新校地、鎌入れを行う。
大正 1(1912)年	8月9日	養鶏場の取り壊しが終わる。
	8月15日	教場・職員室・寄宿舍・便所などの基礎工事を開始する。
	9月23日	台風により、教場・寄宿舍の足場が壊れる(翌24日、足場復旧する)。
	10月1日	教場の上棟式を行う。
	10月21日	北側寄宿舍の上棟式を行う。
	10月28日	職員室の上棟式を行う。
	11月15日	食堂・炊事場の上棟式を行う。
	11月18日	大講堂の上棟式を行う。
	12月5日	豊国・明治・横浜の各保険会社が実地調査を行う。
	12月17日	玉川電気会社と契約を結ぶ。
	12月20日	日ヶ窪校地にあった献灯碑(現、禅研究館前)を建てる。
	12月21日	日ヶ窪校地にあった原坦山老師の碑(現、禅研究館前)を建てる。
	12月25日	日ヶ窪校地から荷物1台分届く(翌26日にも荷物1台分)。
	12月27日	吉祥寺旃檀林の曹洞宗第一中学林から机・椅子が届く。
	12月29日	大雪により、電話不通。
12月30日	門柱4本建てる。	
大正 2(1913)年	1月3日	日ヶ窪校地から下駄箱・米びつなどが届く。
	1月9日	電灯の内線工事を開始する。日ヶ窪校地(10台分)・吉祥寺旃檀林(2台分)から荷物が届く。
	1月10日	荷物運搬のため、豪徳寺の僧3人を借りる。日ヶ窪校地から荷物(11台分)届く。
	1月11日	荷物(11台分)が届く。豪徳寺の僧2人を借りる。
	1月12日	荷物(10台分)が届く。豪徳寺の僧2人を借りる。
	1月13日	荷物(7台分)が届く。豪徳寺の僧3人を借りる。
	1月15日	人夫2人を雇い、豪徳寺の僧5人を借り、諸道具を整理する。
	1月21日	50人の学生が入寮する。電灯の内線工事が終了する。仏師が釈尊像(禅文化歴史博物館蔵)を届ける。
	1月26日	仮移転開校式を挙げる(来賓約80人)。
	1月27日	駒沢村の村民に駒沢新校地を開放する(来賓者千人余)。
	2月16日	大工3人を雇い、ごみ箱・ちりとり・自転車置場・傘置・状差・名札掛・郵便物掲示板・下駄箱・冷水浴場・薬局などを整備させる。
3月10日	駒沢村長、隣接住民と境を決める。	